

イージーセルフチェック BOOK

～安全に長くお使いいただくために～

乗用田植機編



はじめに

この冊子はお客様ご自身で日常点検・整備を行っていただけるよう、作業内容をまとめたものです。

きちんと点検・整備をすることにより、安心してご使用いただくことはもちろん、時期中のトラブルや高額な修理代の発生を減らすことができます。

この冊子は NP シリーズをベースに項目を抜粋しています。機種により項目や各部の位置・形状、部品等が異なりますので、必ずご使用機種の取扱説明書を併せてご利用ください。



I. エンジン編

- 1 エンジンオイルの点検・交換 ……1
- 2 エンジンオイルフィルタの交換 ……1
- 3 冷却水量の点検 (G・D型)
リザーブタンクの点検 ……2
ラジエータの点検 ……2
- 4 ラジエータの清掃 (G・D型) ……2
- 5 エアクリーナエレメントの清掃
ガソリンエンジン (G・V型) ……3
ディーゼルエンジン (D型) ……3
- 6 点火プラグの清掃 (G・V型) ……4
- 7 ファンベルトの点検と調整 ……5

II. 本機編

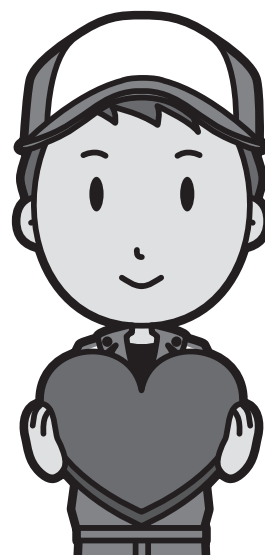
- 1 チェンジミッションオイルの
点検と補給・交換 ……6
- 2 油圧オイルフィルタの交換 ……6
- 3 バッテリーの点検と交換 ……6
- 4 オイル注油箇所 (植付部含む) ……7
- 5 グリース注入箇所 (グリースニップル) ……7

III. 植付部編

- 1 植付爪の点検・交換 ……8
- 2 植込フォークの点検・交換 ……8
- 3 植込杆・リードメタルの
点検・補給 ……8

IV. 施肥機編

- 1 注油箇所の点検と補給 ……9
- 2 施肥ブラシの点検 ……9
- 3 フクドバンの点検 ……9





I. エンジン編

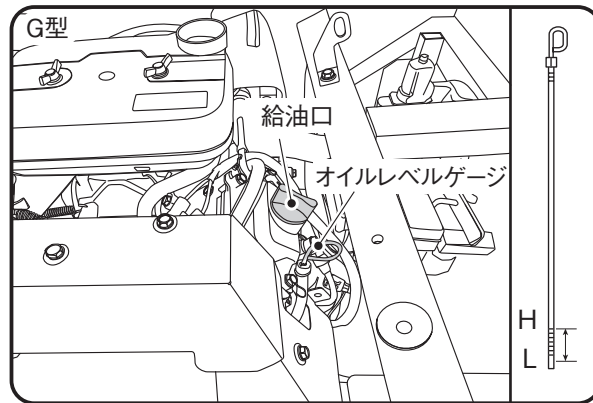
1 エンジンオイルの点検・交換

■点検 作業前

- 1 エンジンを停止してエンジンカバーを開けます。
- 2 オイルレベルゲージの上下刻印の間に油量があるかチェックします。
- 3 下限以下の場合は中セキ純正オイル10W-30を補給してください。
- 4 エンジンカバーを閉めてください。

check

- G・V型…ガソリンエンジンオイル
 - D型……ディーゼルエンジンオイル
- ※中セキスーパーマルチエンジンオイルは兼用



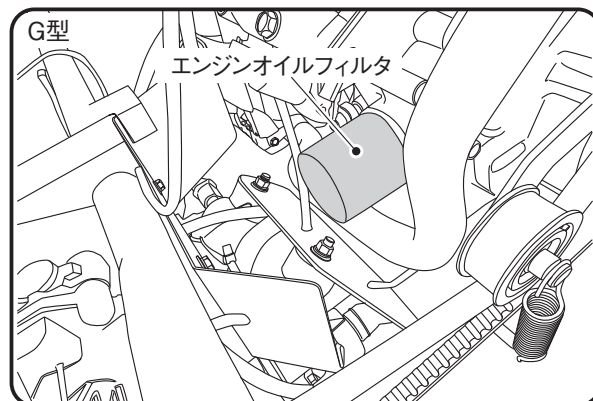
■交換 初回20時間 以後50時間毎または3年で交換

- 1 エンジンの下側にあるドレンプラグを外しオイルを容器に受けて抜いてください。
- 2 ドレンプラグを締め付けてください。
- 3 給油口からエンジンオイルを給油してください。
- 4 オイルレベルゲージの上下刻線の間に油量があるか確認してください。
- 5 オイルレベルゲージを閉めてください。

2 エンジンオイルフィルタの交換

200時間毎

- 1 エンジンオイルを排出してください。エンジンオイルの排出の仕方は、エンジンオイルの交換の要領で行ってください。
- 2 G型はエンジン前方、V型・D型はエンジン後方にあるオイルフィルタを反時計方向にねじって外します。
- 3 新しいフィルタはゴムシール部にオイルを薄く塗布してから手で締め付けて交換してください。



3 冷却水の点検 (G・D型)

作業前

■リザーブタンクの点検

1 G型はエンジン右側、D型はエンジン左側にあるリザーブタンクのキャップを外してください。

2 リザーブタンク内の冷却水量が規定範囲内(H⇔L)にあるかどうか点検し、少ない場合はHラインまで補給してください。

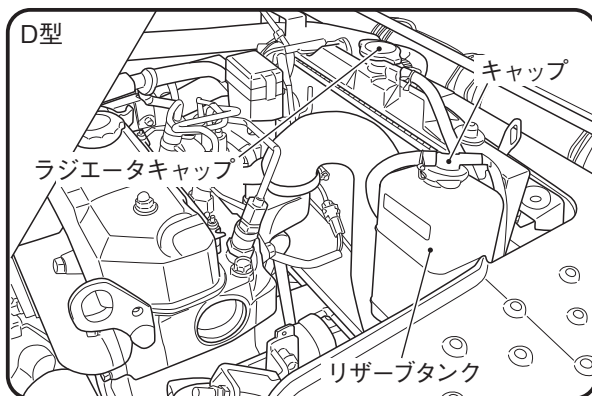
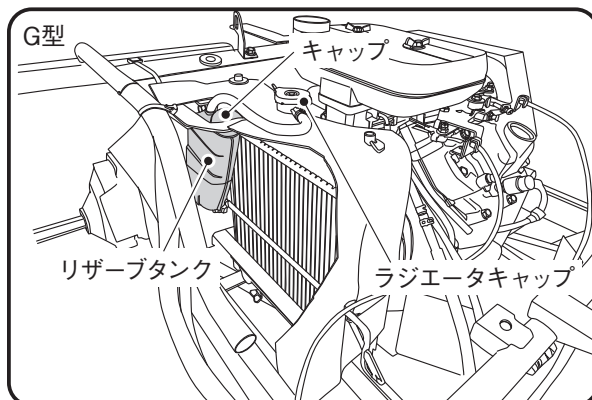
check ■G型は機体右側ラジエータカバーのスリット部から冷却水量を確認してください。

3 点検後リザーブタンクのキャップを確実に閉めてください。

■ラジエータの点検

「口元」まで入っているかどうか点検し、少ない場合は補給してください。

check ■点検はエンジンが冷えてから行ってください。運転中や停止直後にキャップを開けると熱湯が噴出するおそれがあります。



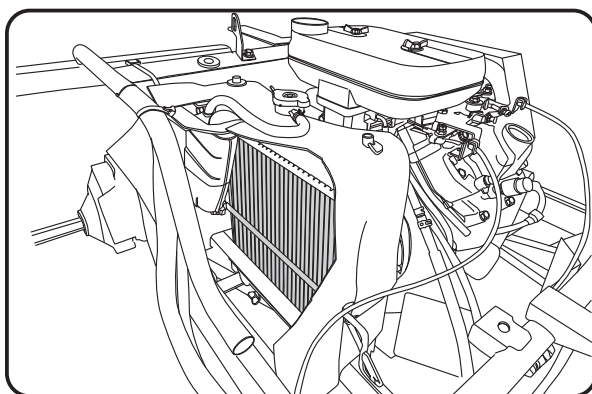
※冷却水の交換(1回/年)や不凍液の取り扱いについては取扱説明書に従ってください。

4 ラジエータの清掃 (G・D型)

不調時

夜間の走行をすると、ラジエータに虫が付着し詰まることがあります。清掃してください。フィンの中にゴミが入った場合は、水道水で流してください。

check ■強い圧力水をかけないでください。フィンが変形することがあります。
■エンジンのまわりの電気配線・電装品には水をかけないでください。故障の原因となります。



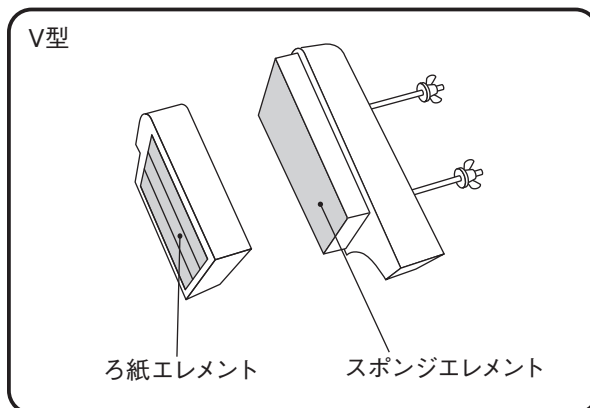
5 エアクリーナエレメントの清掃

■G型・V型

エンジンカバーを開けてエンジン上方にあるエアクリーナカバーを外してください。

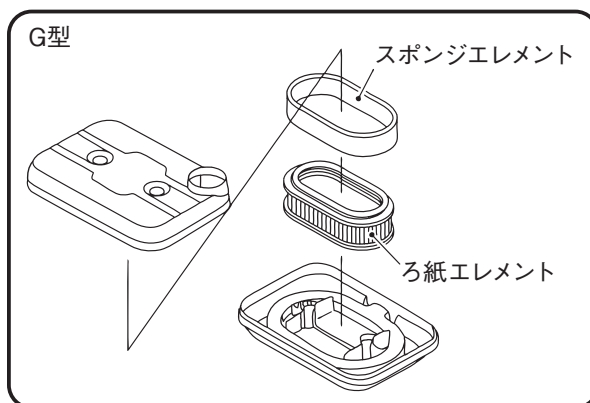
スポンジエレメント 25時間毎

- 1 石けん液で洗浄した後、水洗いし、よく乾燥させてください。
- 2 エンジンオイルに浸して固く絞ってから取り付けてください。



ろ紙エレメント 100時間毎

- 1 軽く叩いてホコリを落としてください。
- 2 汚れのひどい場合は新品に交換するか、石けん液で洗浄した後、水洗いしてください。
- 3 よく乾燥させてから取り付けてください。

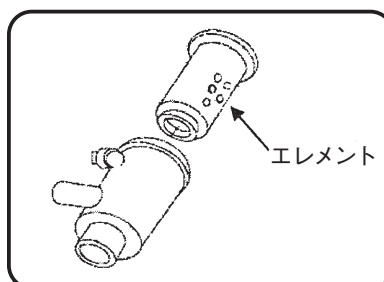
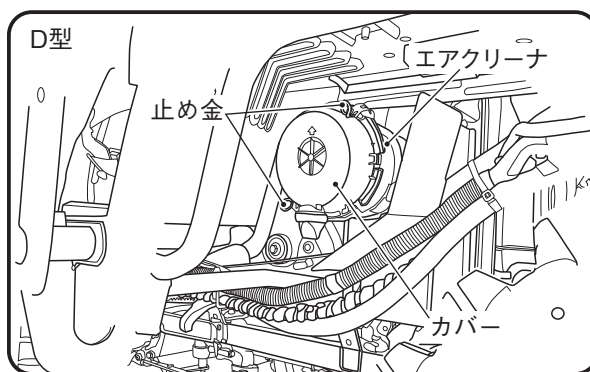


■D型 100時間毎

- 1 左後輪前方にあるエアクリーナの止め金（2箇所）を外してください。
- 2 カバーを外し、エレメントを抜き取ります。
- 3 エレメントを手で持ち、軽くたたいてホコリを落としてください。

check ■エアーでゴミ・ホコリを吹き飛ばすと清掃が容易です。

- 4 エレメント清掃後、確実に組み付けてください。
- 5 カバーを取り付けます。



6 点火プラグの清掃 (G型・V型)

毎シーズン 不調時

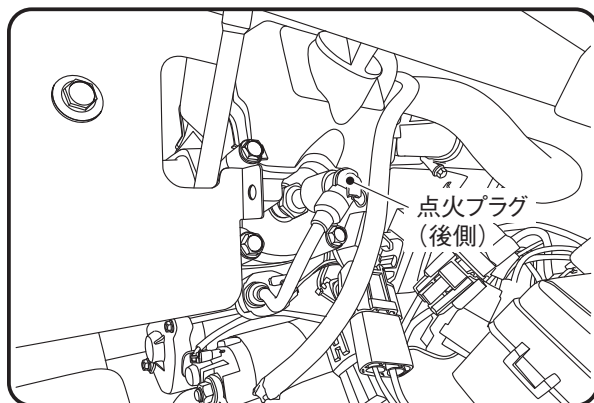
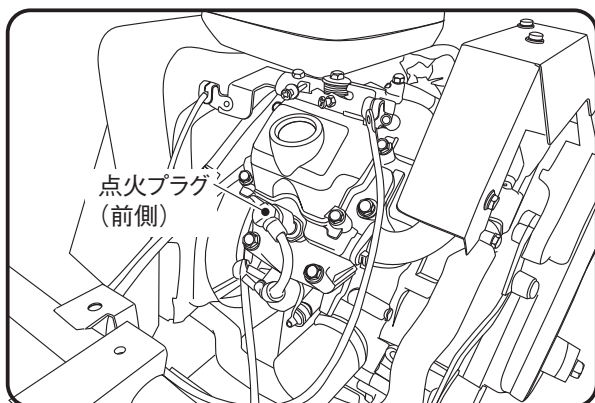


CAUTION

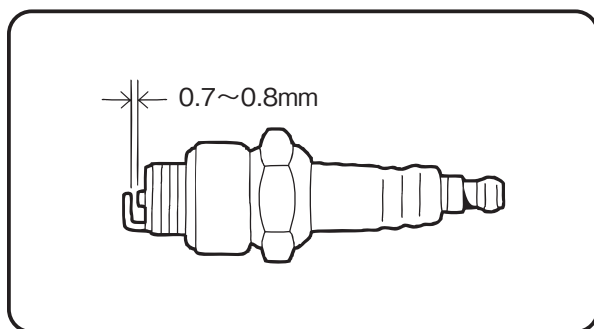
点火プラグの清掃は、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
※守らないと、やけどの原因になります。

■G型

- 1 エンジンカバーを開けて、エンジン前後 (2箇所) にある点火プラグを付属のボックスレンチで取り外してください。(V型は1箇所)



- 2 点火プラグに付着しているカーボンを取り除き、電極間を0.7~0.8mmに調整してください。



- 3 点火プラグを元のとおりに取り付けてください。

7

ファンベルトの点検と調整

作業前 100時間毎

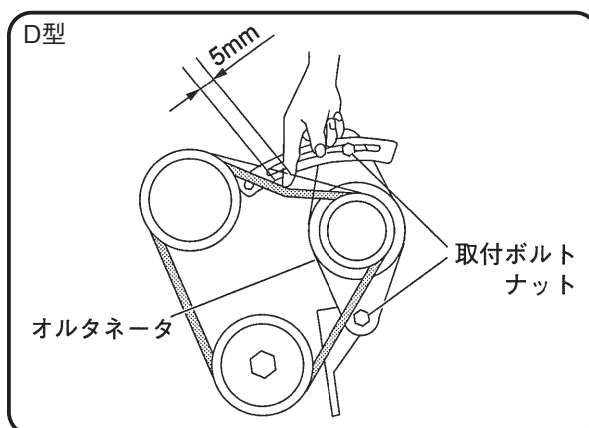


CAUTION

ファンベルトの張り具合の調整は、エンジン停止後、
十分冷えてから点検を行ってください。
※守らないと、マフラ等に当りやけどをすることがあります。

点検

- 1 ベルトの中央部を手で押さえて、5mm程度たわむか、確認します。
- 2 ベルトの張りがゆるいと、オーバヒートや充電不足の原因となります。下記「調整」を参考に調整してください。
- 3 ベルトに亀裂やはがれがないか点検し、損傷があれば新品と交換します。



調整

- 1 オルタネータを取り付けているナットとボルトをゆるめます。
- 2 オルタネータを動かし、ベルトの中央部を手で押さえます。ベルトの張りが5mmたわむ程度に調整してください。
- 3 調整後はナットとボルトを確実に締め付けます。

check

■新品のファンベルトは組み付け直後、運転すると、必ず初期伸びが発生します。交換調整後約1時間運転した後、初期伸び調整を再度行ってください。この調整を行わないと、オーバヒートや充電不足の原因となります。

※このページはD型（水冷ディーゼルエンジン）に適用します。



Ⅱ. 本機編

1 チェンジミッションオイルの点検と補給・交換

■点検 作業前 不調時

- 1 植付部を降ろしてください。
- 2 検油ボルトを外し、検油口までオイルが入っているか確認してください。

check ■作業時には、念のためオイルを受ける容器を用意してから行ってください。
- 3 確認が終わったら、検油ボルトを元どおりにしてください。

■補給 交換

油圧タンク： 初回30時間 以後50時間または3年で交換
 ギヤボックス： 初回50時間 以後50時間または3年で交換

- 1 油量が少ない場合は、給油口のキャップを外し、検油口下面まで補給してください。
- 2 給油が終わったら、キャップを元どおりにしてください。

check ■油圧タンク部(キャップ黄色)は、オイル(サセキU・T・Hオイル)を給油してください。
 ■ギヤボックス部(キャップ黒色)はオイル(マルチデラックスギヤオイル#80)を給油してください。

2 油圧オイルフィルタの交換

初回30時間 以後100時間毎または3年で交換

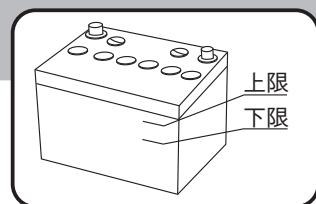
- 1 植付部を降ろしてください。油圧タンク部のドレンプラグをはずし、油圧オイルを排出してください。
- 2 油圧オイルフィルタを反時計方向にねじって外します。
- 3 新しいフィルタはゴムシール部にオイルを薄く塗布してから手で締め付けてください。

check ■交換後エンジンを回すと、オイルフィルタに入っていた量だけ油圧オイルが減ります。規定量まで油圧オイルを追加してください。

3 バッテリーの点検と交換

作業前 シーズン前

バッテリーは、シーズン前に、点検してください。



- check**
- バッテリー液は使っているうちに蒸発して減少します。バッテリー前面の2本の線(レベル)の間に液面があるか確認してください。少ないときは上側の線(レベル)まで補給してください。
 - 液が減ったときは、精製水を補給します。
 - 補水キャップの排気口にゴミ等が付着している時は取り除いてください。また、排気口はふさがないようにしてください。内圧が上昇し、破損する恐れがあります。

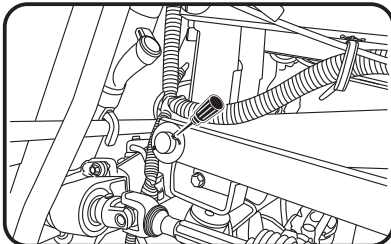
バッテリーは使用しなくても自己放電します。
 長時間使用しない場合は、補充電を行ってください。
 夏期…1ヶ月ごと 冬期…2ヶ月ごと

※バッテリーについてその他注意事項は取扱説明書を十分にお読みください。

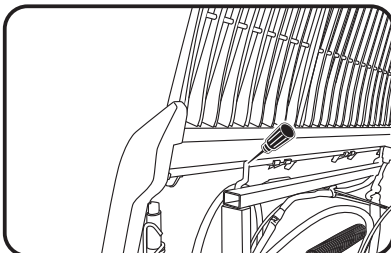
4 オイル注油箇所（植付部含む）

check ■注油箇所には黄色の塗料が塗ってあります。毎日作業前に必ず注油してください。

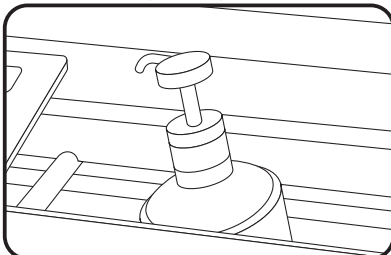
リンク支点部（後方）



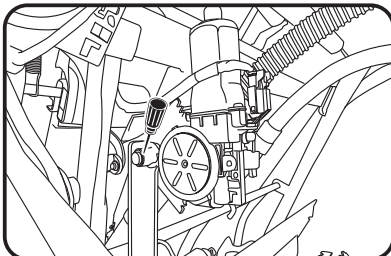
苗のせ台ローラ部



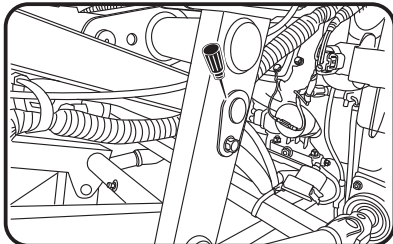
しゅう動板（NP80）



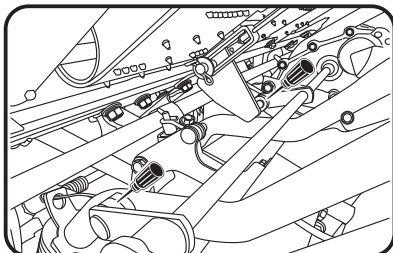
ロータ昇降モータ回転支点部



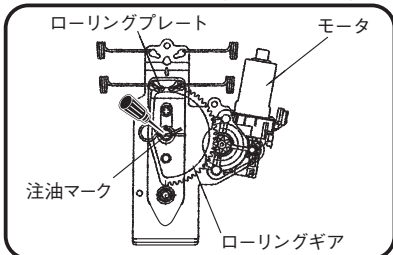
リンク支点部（前方上）



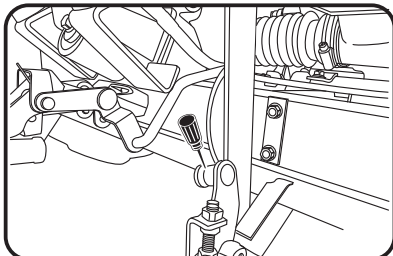
苗送りアーム、カム関係（左右各1箇所）



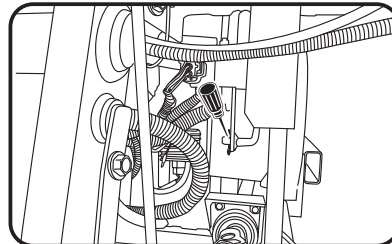
オートローリング（NP70～50）



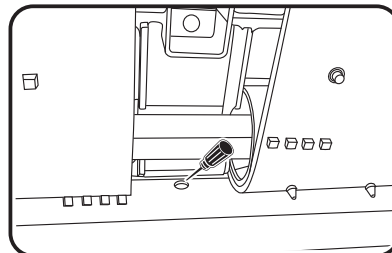
カム（ロータ）のローラ部



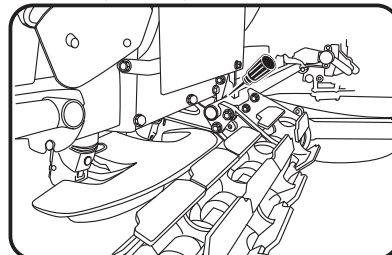
植付クラッチピン作動支点部



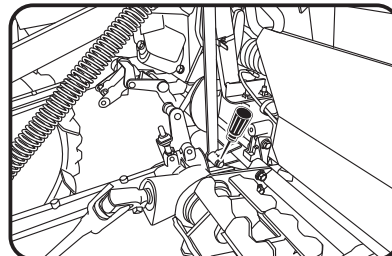
しゅう動板（NP70～50）（4箇所）



アーム（ロータ）の回転部

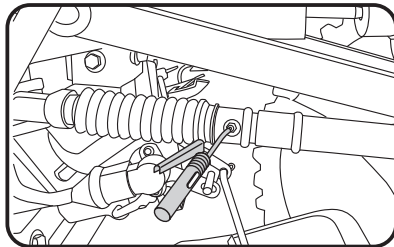


アーム（ロータ/モータ）回転支点部

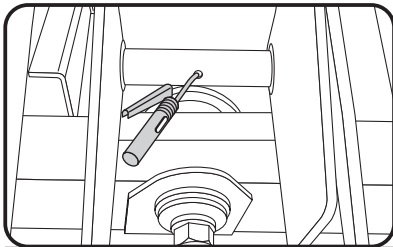


5 グリース注入箇所（グリースニップル）

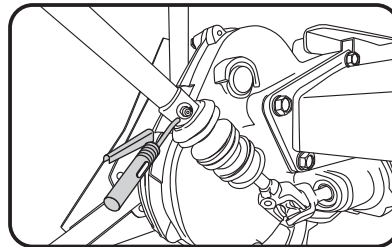
植付伝動軸シャフト部



リンク支点部（前方下）



ロータ伝動軸シャフト部



※注油箇所やグリース注入箇所は機種・型式で異なります。詳細は取扱説明書に基づき実施してください。



Ⅲ. 植付部編

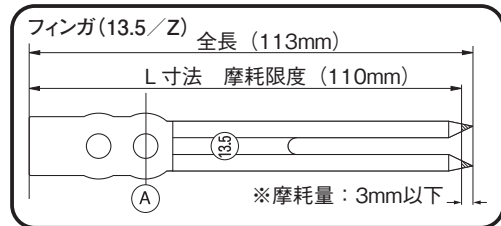
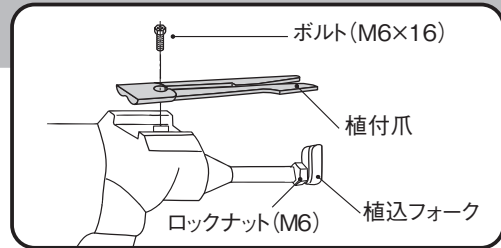
1 植付爪の点検・交換

作業前 不調時

植付爪の先端が摩耗または変形すると植付不良となります。摩耗限度は3mmを目安としておりますので、右下図に照合して確認してください。

植付爪の全長L寸法が110mm以上あれば摩耗限度内です。標準付属品の苗取口ゲージを使って苗取量の調節を行ってください。

但し、L寸法が110mm未満の場合は摩耗限度に達していますので、植付爪を新品に交換してください。

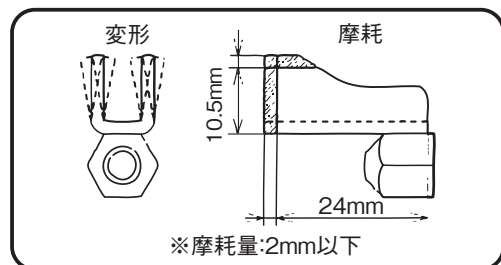
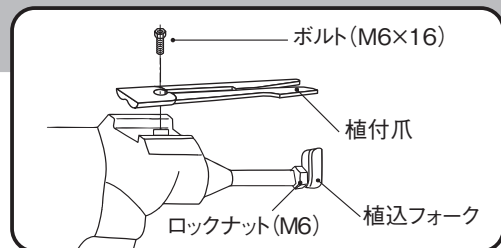


2 植込フォークの点検・交換

作業前 不調時

植込フォークが摩耗または変形すると植付姿勢が悪くなります。植込フォークの摩耗状態が2mm以上（残りが、高さ方向10.5mm、長さ方向24mm）摩耗しているときは、交換してください。

植込フォークが変形しているときは、押し出し確認または、交換してください。



3 植込杆・リードメタルの点検・補給

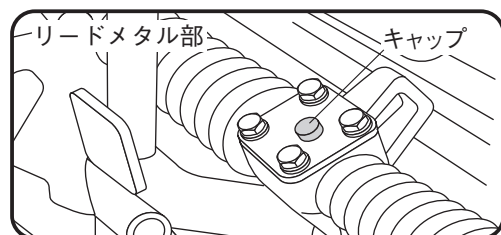
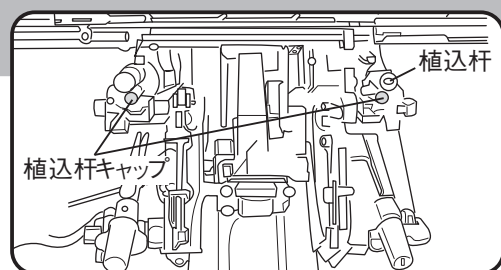
点検 作業前

キャップを取り外し、中にグリースがあるか確認してください。確認後はキャップを取り付けてください。

補給

油量が少ない場合は、グリースを適量補給してください。（キセキ純正グリス推奨：お買いあげ先へお問い合せください。）

補給後はキャップを取り付けてください。





IV. 施肥機編

1 注油箇所の点検と補給

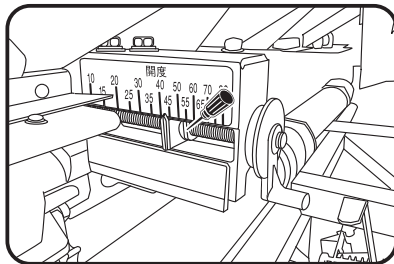
作業前 作業後

check

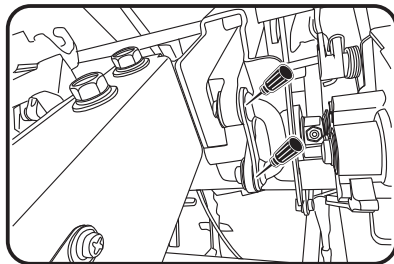
- 毎日作業前に下記箇所に必ず注油してください。
- 機種・型式で注油箇所が異なりますので、詳細は取扱説明書に基づき実施してください。

■ オイル注油箇所

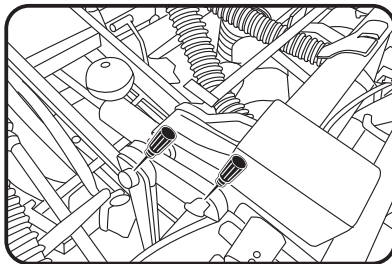
くり出し調節ハンドルのネジ部



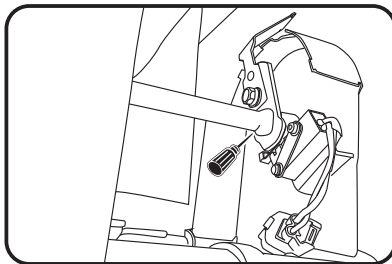
施肥リフトロック部(2箇所)



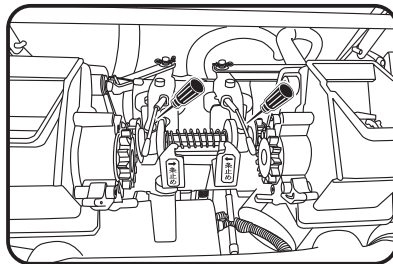
駆動リンク部



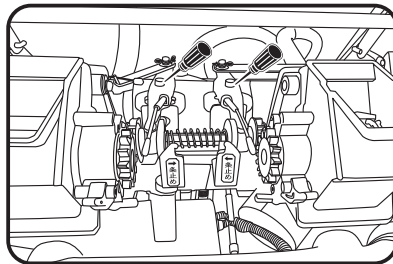
排出レバーの回動支点部(1箇所)



クラッチ爪部、しゅう動部(各条)



あぜクラッチフォーク支点部



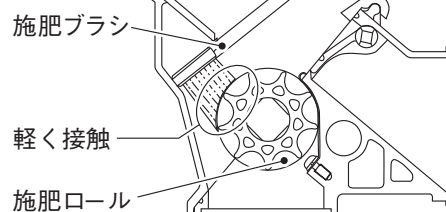
2 施肥ブラシの調節

不調時

施肥ブラシが施肥ロールに軽く接触しているか確認してください。

check

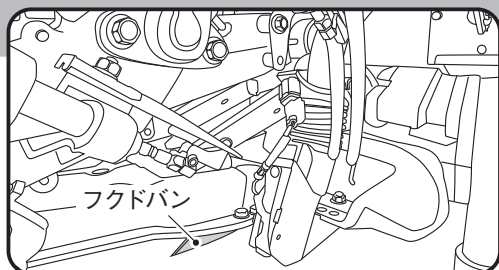
- 施肥ブラシと施肥ロールのスキマが開くと正確に肥料をくり出すことができません。
- 施肥ブラシが消耗してきたら新しいものと交換してください。



3 フクドバンの点検

毎シーズン 不調時

施肥溝を覆土します。
毎シーズン初めに变形等がないか点検してください。



安全に作業を行っていただくために

点検・整備をするときは、明るく、地面が平たんで硬く、広い場所で行ってください。
※守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、パーキングブレーキをかけ、油圧降下速度調節つまみを回して油圧をロックしてから行ってください。
※守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりして傷害事故を引き起こすことがあります。

過熱部分は冷えてから行ってください。
エンジンが停止後すぐに、点検・整備をしないでください。エンジン等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
ラジエータキャップおよびリザーブタンクキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けないでください。運転停止後よく冷えてから注意して開けてください。
※守らないと、熱湯が噴出してやけどをするおそれがあります。(水冷の場合)

屋内でエンジンを始動する場合は、十分に換気をしてください。
閉め切った屋内等ではエンジンを始動しないでください。
※守らないと、排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

点検・整備は適正な工具を正しく使用して行ってください。
※守らないと、整備中や整備不良による傷害事故を引き起こすことがあります。



廃棄物処理について

- 機械から廃液を抜く場合は、十分な容量がある容器に受けてください。
 - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
 - 廃液、燃料、冷却水（不凍液）、溶剤フィルタ、バッテリー、ゴム類その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。
- ※廃棄物をみだりに、廃却、焼却すると環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

井関農機株式会社

技術サービスセンター

〒300-2346

茨城県つくばみらい市青木560

TEL. 0297-58-5131